

# ガラス小玉を発見！！

す わ じん じゃしゅうへん いせき さいじょうひがしきたまち  
諏訪神社周辺遺跡 (西条東北町)

諏訪神社周辺遺跡は、集合住宅の新築に伴って平成 29年4月に発掘調査を行いました。調査は神社のすぐ南側で行われ、溝や土坑・柱穴などがみつき、弥生土器が出土しましたが、狭い範囲の調査であり全容は明らかにすることはできませんでした。

しかし、この遺跡では平成 6・10 年度に行われた神社の東側での発掘調査で弥生時代中ごろから終わりごろの集落跡がみつかり、神社が鎮座する丘陵全体が弥生時代には大きなムラであったと考えられます。

今回出土した遺物の中で注目されるのは淡い青色のガラス小玉です。長さ、直径ともに3mmに満たないビーズのような小玉です。東広島市内ではこのような弥生時代の小玉は住居跡から出土することが多く、北西に約0.9kmはなれた横田1号遺跡でも弥生時代後半の竪穴住居跡からガラス製の小玉と管玉が細型銅剣の一部と一緒に出土しています。

ガラス製品は東南アジアや中国大陸からの渡来品であり大変貴重なものであったとみられます。このような貴重な品を持つことができた諏訪神社周辺遺跡の者とは？横田1号遺跡との関係性は？当時のムラの風習や、貴重なガラス玉を手に入れた経緯などを想像すると、ますます弥生時代の人々の生活や人間模様に興味が湧いてきますね。

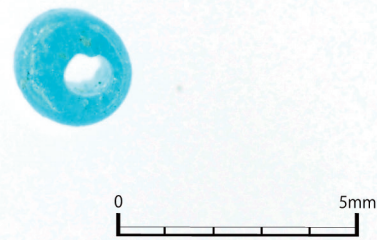


写真4 諏訪神社周辺遺跡出土ガラス小玉 (直径約2.5mm)

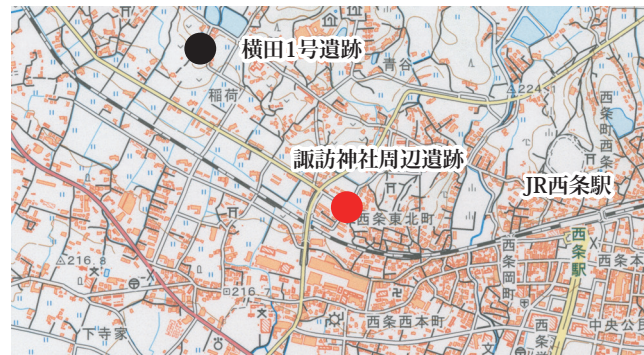


図4 諏訪神社周辺遺跡位置図(1:25,000)



写真5 横田1号遺跡出土遺物

東広島市出土文化財管理センター報  
**東ひろしまの遺跡 Vol.7**  
 発行日 2019 (令和元) 年 7 月 31 日  
 発行 東広島市出土文化財管理センター  
 (東広島市河内町中河内651番地7)  
 TEL:082-420-7890 〒739-2201  
 編集 東広島市教育委員会生涯学習部文化課  
 E-Mail hgh207890@city.higashihiroshima.lg.jp  
 印刷 有限会社アラ・アド

# 東ひろしまの遺跡 Vol.7

## 道照館跡の西側に“堀跡”確認！

どうしょういせき さいじょうちよみ そのう  
道照遺跡 (西条町御菌宇)

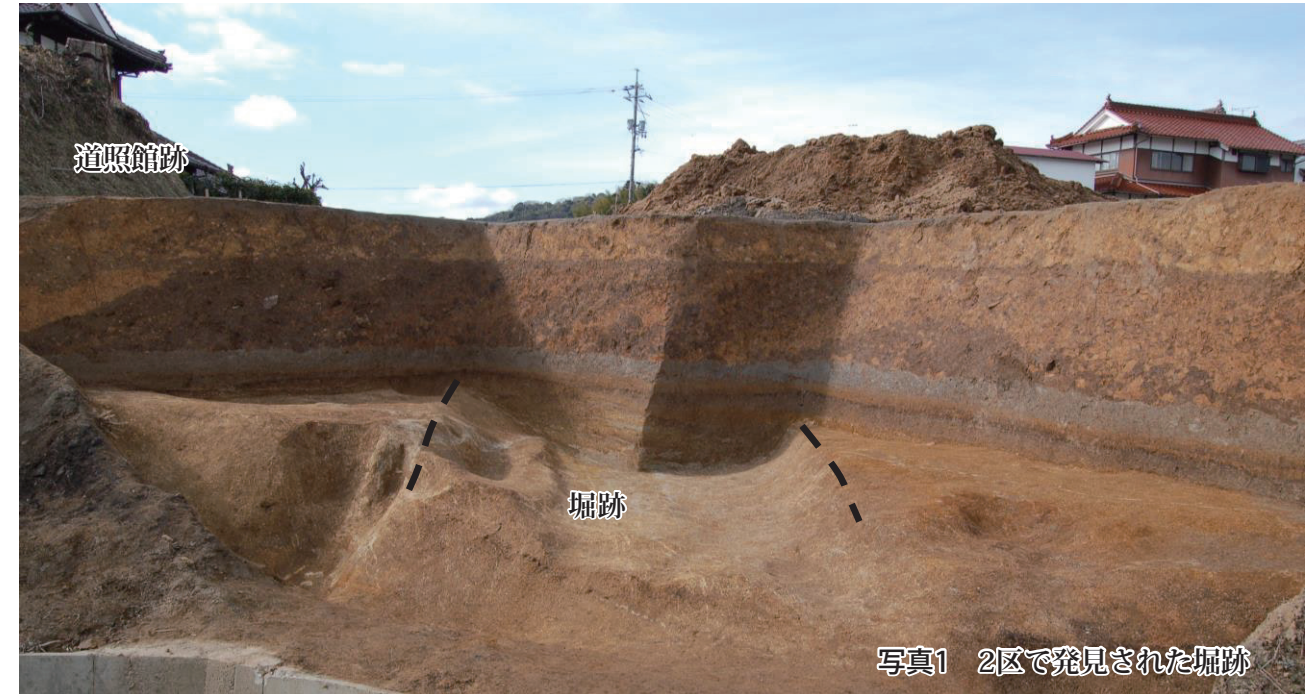


写真1 2区で発見された堀跡

道照遺跡は、西条盆地の南側、八幡山から南東に延びる丘陵の先端に存在する遺跡です。この遺跡の中心には館跡があり、「道照館跡」と呼ばれています。北側に土塁、その南側の小高い丘の上には建物が建っていたと思われる平坦地が広がっており、室町時代中ごろには成立していたと考えられます。

昭和55・56年度に行われた館跡の東側での発掘調査では、掘立柱建物跡や土坑などが検出され、13～14世紀ごろの土師質土器や陶磁器の他、木製品などが多量に出土しています。

今回の発掘調査は住宅団地の造成に伴い、この館跡の西側平坦地の一部(2区)を対象として平成29年2月に発掘調査を行いました。



図1 道照遺跡位置図(1:25,000)



1区は、調査区北側の水路(自然流路)に向けて切岸状の斜面となっており、その斜面には、マサ土と花崗岩が露呈していました。

出土した遺物は、江戸時代後半～明治時代前半の土師質土器・陶磁器・瓦などでした。

2区の調査からは、館の西側範囲において初めて堀跡を確認することができました。この堀からは、江戸時代の終わりごろの土師質土器などが出土しています。

2区は周辺よりも一段低くなっており、西側から延びる尾根を断ち切った堀の一部分と考えられます。館が建てられていたのが室町時代中ごろ、土師質土器が堀の中に紛れたのが江戸時代の終わりごろだと考えると、この堀は、長期にわたってその姿をとどめ、近代以降に、水田を広げるため埋め立てられたと考えられます。

この館跡は文献もなく、築造時期、居住者も明らかではありませんが、今回の調査で館の防御構造の一端が明らかになりました。



写真2 1区の発掘調査の様子

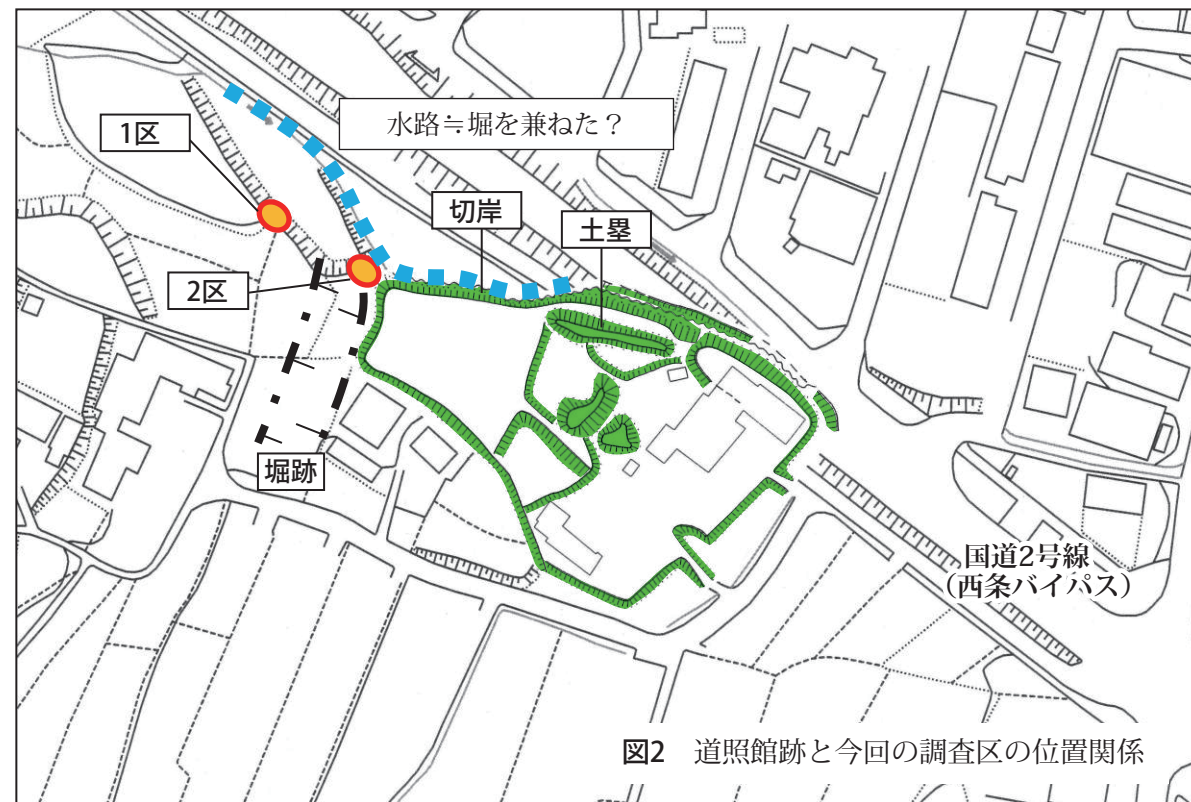


図2 道照館跡と今回の調査区的位置関係

## 中世 高屋保の風景

ふくじん1ごう いせき たか やちょうたか や ほり  
福神1号遺跡 (高屋町高屋堀)



写真3 福神1号遺跡の発掘調査の様子

福神1号遺跡は、住宅団地造成事業に伴って平成29年12月～平成30年2月まで発掘調査を行いました。

その結果、小高い丘の斜面から溝や土坑のほか、家や小屋などの柱の跡が多く見つかり、2棟の掘立柱建物跡を復元することができました。

建物跡は過去の調査例から室町時代ごろのものとみられ、出土した土師質土器の皿や鍋、青磁碗もほぼ同じころのものです。遺跡のすぐ北側には中世の城館跡である下堀土居屋敷跡もあります。

高屋堀は中世には「高屋保」と呼ばれ、在地の有力者である平賀氏が支配していました。遺跡の眼下を流れる萩原川の谷を北へ約1.8kmさかのぼると、その平賀氏の室町時代以降の拠点である御園宇城跡があります。萩原川沿いには平賀氏に関係するとみられる中世の遺跡が点在しており、本遺跡もそのひとつに数えられるかもしれません。

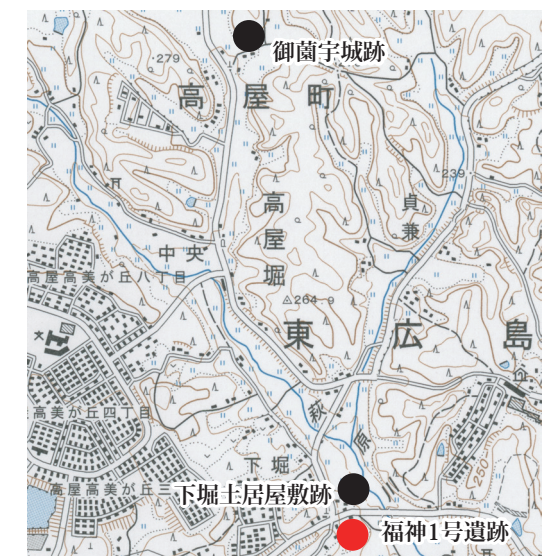


図3 福神1号遺跡位置図 (1:25,000)